

田中復興大臣記者会見録

(令和2年2月18日(火) 11:32～11:36 於) 経団連会館 4階404号室)

1. 質疑応答

(問) 中西会長に冒頭、3点お願いいたしましたけど、中西会長からどのような御回答がございましたか。

(答) 今までも、経団連のほうからは、各企業、また、組織を挙げていろんな活動をしてお支えをいただいてまいりました。

さらに、引き続き頑張っていく、支援していく、協力していくというお話でございました。

そういう中にも、やはり風化のお話も出ましたし、また、やる気のある人たちがはっきりといらっしゃるので、その人たちを中心に頑張っていかなきゃいけないというお話もありました。

風評被害についても、現実にはそのことがあるので、お互いに更に努力していこうというお話もありまして、非常に有意義であったと思っております。

以上でございます。

(問) 防災集団移転促進事業はほぼ終わったと思うのですが、残念ながら、女川町や大槌町など全く人口が戻らないところ、その辺はこれからどうお考えでしょうか。

(答) 日本全国、地方は今、人口減の問題、高齢化の問題があるわけでございまして、被災地も当然、同様のことがあるわけでありませう。

私たちは、そういう中に災害があるという、被災地であるというハンディキャップもあるわけでございます。

今日も経団連の会員企業の皆様に、とにかく今後、協力をしますので、ぜひ出てきていただきたいというようなお願いを相当しつつこくさせていただいて、恐縮でございましたが申し上げたわけでございます。

また、もう1点は、やはり雇用、あるいは人材の関係についても、企業の皆様にともに来ていただけるような形がないと、賑わいというか、生業(なりわい)というものもできてこないわけでございまして、経団連の皆様に、今日は相当お話を申し上げた経過があります。

ただ、経団連の皆様からもお話があったように、もちろん自分たちも協力するけれど、やはり地元の皆様方に頑張ってもらえるようなサポートを、きちんと復興庁としてもやってほしいというお話もありました。今後もそういう決意をもって努力してまいりたいと思っております。

(問) 現実的に、岩手、宮古って水産加工しかないんですよね。そう

すると、経団連とちょっと業態が違うかなという。

(答) 副会長は三越伊勢丹グループのトップでいらっしゃいますので、今日はそういう物販についても少しお話が出ましたので、また我々も努力させていただきたいと思います。

特に水産物関係は、ここで言うのがいいかどうかは別にして、日本全体でも、やはり少しお魚の消費というものが減って、肉のほうにシフトしているものですから、獲れないだけではなくて、やはり日本全体の中で、もう少しおいしいお魚、海産物を食べてもらえるように、外国にもお願いしないといけないのですが、国内でも努力しないといけないと思っております。

以上でございます。どうもありがとうございました。

(以 上)